

# 認定看護師シタター

認定看護師室 2014年12月16日発行 Vol.27 担当：救急看護認定看護師 具志陽宏

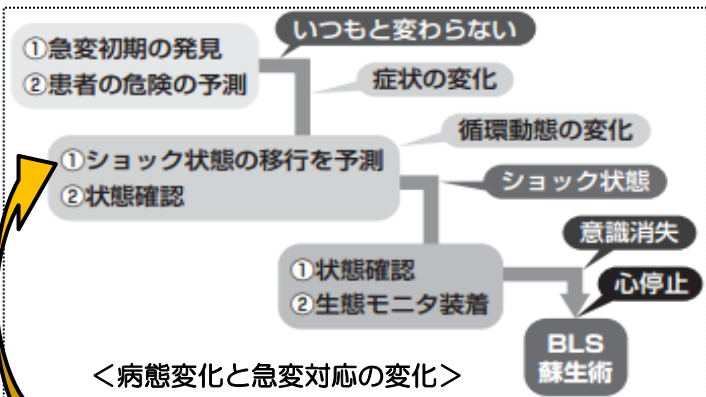


## 急変の予兆、その対応と観察

現在、救急看護認定看護師の活動として、院内急変事例に対する振り返りを行っています。目的は今後の看護実践がさらに良いものになり、円滑に救命処置ができるようになることです。

ディスカッションを通して、これまで解消できなかった思いや悩みを少しでも共有できること、発見現場に居合わせた人の考えや自分だったらどのように考え行動するか等を考える機会となることを期待しています。

一般的に重篤な有害事象や院内の予期せぬ死亡は突然発生するのではなく、60~70%の症例では心肺停止の6~8時間前に急変の兆候（呼吸、循環、意識の異常・悪化）が認められると言われています。看護師は患者さんにとって“命の番人”です。「何かおかしい、いつもと違う」と感じた時は、まずは意識、呼吸・循環状態を観察して下さい。早急に処置が必要な場合は医師へ連絡と同時に、気道確保や末梢ルート確保等の準備を行って下さい。さらに心肺停止へ移行した場合はBLS、ACLSといった救命処置の実施、救急カート、AED、モニター付き除細動器の準備をします。



＜病態変化と急変対応の変化＞

循環動態の変化が起こるまでに、病態変化に気づき患者を危険にさらさないことが重要！

私たちが、急変した患者さんを発見した場合は初期評価、一次評価、二次評価を行う

- 初期評価** 感覚を用いてパッと行う  
患者と初めて接した時の最初の数秒で行う評価
- ①呼吸：「努力様？」「頻呼吸？」
  - ②循環：「蒼白？」「冷汗や冷感は？」
  - ③外見・意識状態：「反応は？」「苦しそう？」
- ※危険な徴候があれば初期対応を開始する
- 一次評価** 身体診察をサッと行う  
迅速評価に続いて、
- ①バイタルサインの測定
  - ②意識状態の評価
  - ③モニター装着（心電図・SpO<sub>2</sub>）
- ※同時に酸素投与、静脈ルート確保、全身をさっと観察して必要に応じて救命処置を行い呼吸と循環を安定させる
- 二次評価** バイタルサイン安定後  
呼吸と循環の安定化が得られたら、
- ①病歴・急変に先行するエピソードの聴取（SAMPLE）
  - ②身体診察（頭からつま先まで系統的に行う）

コンサルテーション実績報告 2014年度（前年度）件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
緩和ケア	22 (17)	10 (19)	12 (39)	10 (19)	9 (21)	22 (13)	8 (10)	10 (13)
集中ケア	15 (3)	8 (7)	8 (5)	7 (3)	4 (8)	9 (4)	8 (6)	6 (11)
皮膚排泄 ケア	75 (50)	64 (71)	62 (70)	49 (72)	37 (65)	49 (58)	66 (73)	34 (64)
感染管理	29 (23)	16 (20)	15 (18)	25 (25)	17 (21)	11 (25)	22 (30)	19 (26)
救急看護	17	11	9 (6)	7 (0)	7 (0)	5 (2)	15 (3)	8 (7)
慢性心不全看護							0	0
摂食嚥下 障害看護							5	13

### 研修会のお知らせ

日時：平成27年2月12日  
18:30~  
場所：中国労災病院  
8階 多目的ホール  
テーマ：褥瘡対策研修会  
※褥瘡対策チームで取り組んだ事例について報告します

テーマ：注目される新興・再興感染症  
～デング熱・エボラ出血熱を中心に～  
講師：広島大学病院 検査部 准教授  
部長 横崎 典哉先生  
日時：平成27年2月26日（木）  
18:30~  
場所：8階多目的ホール